

## みずほマーケット・トピック(2024年4月26日)

### 内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

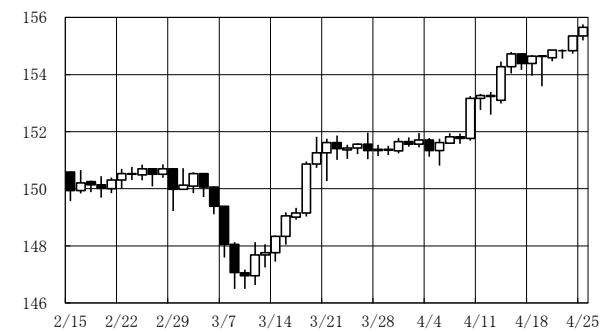
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

#### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

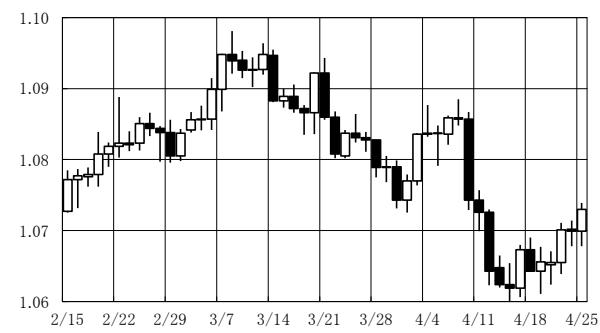
- 今週のドル/円は、節目の155円をついに上抜け、34年ぶりの高値水準を一段と切り上げた。週初22日、154.65円でオープンしたドル/円は中東情勢を巡る緊張感が緩和し、じり高推移。海外時間も、その流れは継続。NY時間には米金利は低下したが、円売り地合いは止まらず、155円を目指し続伸した。23日、ドル/円は政府・日銀による円買い介入警戒感が高まる中、下に向って来い。海外時間は、米4月PMI(速報)の軟調な結果を受けた米金利低下につれて値を下げる場面もあったが、円売り基調の継続が下支えとなる中で、ほぼ往って来いで引けた。24日、ドル/円は、米金利上昇を受け154円台後半でじり高。海外時間は、節目の155円を突破後、堅調な米経済指標や米5年債入札の弱い結果を受けた米金利続伸が好感され、155円台半ばに上値を伸ばした。25日、ドル/円は円売り相場が継続し、155円台後半に続伸。鈴木財務相の円安けん制発言もあったが、語気は強くなく、介入警戒感が若干後退した模様。海外時間は、米GDP統計や雇用関連指標からインフレの根強さ、労働市場の強さが再確認される中で米金利が上昇、34年ぶりの高値となる155.75円に上伸した。本日のドル/円は、引き続き155円台半ばで取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、米独金利差の縮小を受け、堅調に推移した。週初22日、1.0658でオープンしたユーロ/ドルは複数のECB高官のハト派発言や独金利低下を受け週安値の1.0624まで下落も、その後は米金利低下が下支えとなり、1.06台半ばに値を戻した。23日、ユーロ/ドルは軟調な米経済指標を受けた米金利低下が好感され、1.07台に乗せた。24日、ユーロ/ドルは米金利上昇に伴うドル買いに押され、1.06台後半で上値重く推移した。25日、ユーロ/ドルは材料に欠ける中、1.07台前半でじり高。米経済指標公表後は一時週高値となる1.0741に上昇も、市場が指標の内容を消化した後には米金利は上昇し、1.06台後半に反落した。もっともその後は、米国株反発が好感され、再度週高値圏に反発するなど値を戻して引けている。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07台前半で取引されている。

		前週末		今週		
		4/19(Fri)	4/22(Mon)	4/23(Tue)	4/24(Wed)	4/25(Thu)
ドル/円	東京9:00	154.61	154.65	154.81	154.76	155.28
	High	154.68	154.85	154.88	155.37	155.75
	Low	153.59	154.50	154.56	154.73	155.21
	NY 17:00	154.63	154.85	154.84	155.34	155.65
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0642	1.0658	1.0654	1.0701	1.0701
	High	1.0678	1.0671	1.0711	1.0714	1.0741
	Low	1.0611	1.0624	1.0639	1.0678	1.0679
	NY 17:00	1.0657	1.0654	1.0703	1.0698	1.0730
ユーロ/円	東京9:00	164.47	164.80	164.91	165.63	166.20
	High	165.02	165.10	165.71	166.20	167.09
	Low	163.05	164.41	164.64	165.42	165.94
	NY 17:00	164.81	164.97	165.68	166.18	167.00
日経平均株価		37,068.35	37,438.61	37,552.16	38,460.08	37,628.48
TOPIX		2,626.32	2,662.46	2,666.23	2,710.73	2,663.53
NYダウ工業株30種平均		37,986.40	38,239.98	38,503.69	38,460.92	38,085.80
NASDAQ		15,282.01	15,451.31	15,696.64	15,712.75	15,611.76
日本10年債		0.83%	0.88%	0.88%	0.88%	0.89%
米国10年債		4.62%	4.61%	4.61%	4.65%	4.70%
原油価格(WTI)		82.22	81.90	83.36	82.81	83.57
金(NY)		2,413.80	2,346.40	2,342.10	2,338.40	2,342.50

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、4月30日(水)～5月1日(木)にFOMCが開催される。前回3月会合では、FF金利の誘導目標が5会合連続で据え置かれた。声明文にはほとんど変化はなかったが、メンバーによる政策金利見通し(ドットチャート、中央値)に関し、2024年中の政策金利引き下げ幅が▲75bp、すなわち3回程度と前回昨年12月時点から維持されたことが一部の驚きを誘っている。強い経済指標などを受け利下げ期待も相応に縮小していたので、市場もドットチャートの上方修正を警戒していた。パウエルFRB議長の会見でも、「もし景気が予想通りの道筋を辿るのであれば今年のある時点で利下げを始めるのが適切」と年内利下げ路線を念押ししており、市場警戒よりはハト派な内容が目立った。もっとも、3月会合以降も堅調な物価・雇用関連指標が相次いだことを受け、足許ではFRBのスタンスにもやや変化が見て取れる。パウエル議長は16日、利下げまでの期間に関し「以前の想定より長くなる」という認識を示した。ディスインフレに關しても、「さらなる進展が欠如」と警戒感を示している。「利上げ再開」に言及するFRB高官も現れてきているだけに、今回会合もややタカ派に変化した情報発信に備えるべきだろう。

	本邦	海外
4月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日銀金融政策決定会合(25日から)</li> <li>・4月東京消費者物価指数</li> <li>・植田日銀総裁会見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米3月個人所得/支出</li> <li>・米3月個人消費支出(PCE)デフレーター</li> <li>・米4月ミシガン大学消費者マインド(確報)</li> </ul>
29日(月)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏4月消費者信頼感(確報)</li> <li>・独4月消費者物価指数</li> </ul>
30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月失業率/有効求人倍率</li> <li>・3月小売売上高</li> <li>・3月鉱工業生産(速報)</li> <li>・3月住宅着工件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独1~3月期GDP(速報)</li> <li>・ユーロ圏4月消費者物価指数(速報)</li> <li>・ユーロ圏1~3月期GDP(速報)</li> <li>・米1~3月期雇用コスト指数</li> <li>・米2月FHFA住宅価格指数</li> <li>・米4月コンファレンスボード消費者信頼感</li> <li>・米FOMC(5月1日まで)</li> </ul>
5月1日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月製造業PMI(確報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米4月ADP雇用統計</li> <li>・米4月製造業PMI(確報)</li> <li>・米3月JOLT求人件数</li> <li>・米4月ISM製造業景気指数</li> <li>・パウエルFRB議長会見</li> </ul>
2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日銀金融政策決定会合議事要旨(3月会合分)</li> <li>・4月消費者態度指数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏4月製造業PMI(確報)</li> <li>・米3月貿易収支</li> <li>・米3月製造業受注</li> </ul>
3日(金)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏3月失業率</li> <li>・米3月雇用統計</li> <li>・米4月非製造業PMI(確報)</li> <li>・米4月ISM非製造業景気指数</li> </ul>

## 【当面の主要行事日程(2024年4月～)】

日銀金融政策決定会合（4月25～26日、6月13～14日、7月30～31日）

FOMC(4月30日～5月1日、6月11～12日、7月30～31日)

ECB 政策理事会（6月6日、7月18日、9月12日）

金融市场部  
チーフマーケット・エコノミスト  
唐鎌大輔 (TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シントの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高は正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の对外資金フロー動向(2024年3月分)
	週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が再燃の人口～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ベースだった家計の円売り～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直投のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一閂門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年未資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の对外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闇と円高リスク～「異例の質上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の对外資金フロー動向(2024年1月分)
2024年2月14日	本邦10～12ヶ月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月13日	投信経由の对外証券投資～渾む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の对外資金フロー動向(2023年12月分)
	「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライ(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライ(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転換率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ～利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の对外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外觀～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジングの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル发言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指教の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の对外資金フロー動向(2023年10月分)
	1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか？～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～